

<授業実践3> 「論理国語」読むこと

1 指導と評価の計画

科目名	論理国語	学年類型	2年	単位数	2単位	話すこと 聞くこと	
単元名	自由進度学習で、自身の考えを深めよう					書くこと	
教材	丸山真男「『である』ことと『する』こと」					読むこと	○
単元の評価規準							
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。((1)のエ) ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)のア)		「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。(B読むこと(1)の力)		論説文を読み、その内容を基に、自分の考えを論述する活動を通して、他者と積極的に意見を共有することで自分の考えを整理し、複数の言語活動に取り組むなど、粘り強く学習に向き合おうとしている。			
主たる言語活動							
筆者の主張を基に、さまざまな観点や立場から、現代の事象について論じる活動							

時間	授業のねらい・学習活動	重点項目			評価方法
		知	思	態	
1	<b>授業の目標や自由進度学習の進め方について理解する。</b> ①授業の目標と、ICT機器を活用した自由進度学習を行うことを理解する。 ②丸山真男「『である』ことと『する』こと」を通読し、どのように学習を進めていくのかについて見通しをもつ。 ③自分の学習計画と本時の反省をロイロノート・スクール(株式会社LoiLo、以下「ロイロノート」と表記)に提出する。			○	記述の確認 (ロイロノートの提出箱)
	<b>本文の構造と内容を把握し、本文全体を理解する。</b> ④第一節から第九節までの問いや課題に取り組み、本文を理解する。 ⑤必要に応じて問いの解説を読んだり、解説動画を視聴したりする。 ⑥自分で読み進める中で、理解できない箇所は授業者に質問をするなどして、理解するように努める。 ⑦第九節までの設問に答え、本文理解をした生徒は、各節のキーセンテンスの指摘を行う。 ⑧⑦の活動について、グループで意見を共有し、本文についての理解を深める。 ⑨必要に応じて各節のキーセンテンスの指摘についての解説動画を視聴する。 ⑩200字程度の要約に取り組む。 ⑪他者と要約を共有することや、要約についての解説動画を視聴することで、自分の要約や本文理解について振り返りを行う。	○	○	○	

	⑫定期考査	◎	◎		定期考査
10 5 13	<b>筆者の主張に対して、自分の考えを深める。</b>				記述の分析 (ロイロノートの 提出箱)
	⑬筆者の主張を確認し、関連する現代の事象を指摘する。				
	⑭⑬で行ったことについてグループで共有し、自分の考えを深める。				
	⑮筆者の主張と関連する現代の事象について、自分の考えを述べる。		◎	○	
	⑯筆者の主張に対して批判的な立場をとって、現代の事象について、自分の考えを述べる。				
	<b>言語活動の成果物を共有し、自身の活動を振り返る。</b>				記述の分析 (ロイロノートの 提出箱)
14	⑰言語活動の成果物を他者と共有する。		○	◎	
	⑱他者の言語活動の成果物から得た気付きや自身の活動の改善点について、単元の活動の振り返りとして、ロイロノートに提出する。				

※重点項目の欄について、指導に生かす評価には「○」を、記録に残す評価には「◎」を付す。

### ルーブリック

	A	B	C
思考・判断・表現 (第3次)	本文と関連する現代の事象を取り上げ、筆者の主張に対してさまざまな立場から論じることで、自分の考えを深めている。	本文と関連する現代の事象を取り上げ、筆者の主張を基に論じることで、自分の考えを深めている。	現代の事象について論じている。
	LV3	LV2	LV1
主体的に学習に取り組む態度 (第4次)	学習の調整(態度α) 筆者の主張を捉えたり、筆者の主張に対する自分の考えをまとめたりする際に、複数の他者と積極的に意見交流を図り、自分の考えを整理し、深めようとしている。	筆者の主張を捉えたり、筆者の主張に対する自分の考えをまとめたりする際に、他者と意見交流を図り、自分の考えを整理し、深めようとしている。	筆者の主張を捉えたり、筆者の主張に対する自分の考えをまとめたりする際に、自分の考えを整理し、深めようとしている。
	粘り強さ(態度β) 筆者の主張に関連する現代の事象について、異なる観点、立場から自分の考えを三つ以上述べている。	筆者の主張に関連する現代の事象について、異なる観点、立場から自分の考えを二つ述べている。	筆者の主張に関連する現代の事象について、自分の考えを述べている。

[態度α] 自らの学習を調整しようとする側面	LV3	B	B	A
	LV2	B	B	B
	LV1	C	B	B
		LV1	LV2	LV3
[態度β] 粘り強い取組を行おうとする側面				

## 2 研究の実際と考察

### (1) 自由進度学習と授業の実際

本研究では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のために、「指導の個別化」に着目し、自由進度学習の手法を用いた授業実践を行った。自由進度学習は、共通の学習目標に向け、進度や方法を生徒が自分で選べる学習形態である。生徒は自分の理解度に応じて学習を進め、授業者は各生徒に応じた学習手段を準備する。本研究においては、生徒の進捗状況を把握するためにICT機器を用いた。授業の前半は筆者の主張を理解することを目的とし、生徒には「最低進度」「理解できた目安」「手助けツール」などを記載した進度表を配付した。下記表はその抜粋である。

回数	最低進度	理解できた目安	手助けツール
1	・全体通読 ・自由進度学習の見通しをもつ		・語句プリント
2	・第一、二節を読み、それらの設問に答え、節の内容を理解する	・第一、二節の理解 ・問2、問7の理解	・問2、問7解説動画 ・第一節、二節解説動画
3	・第三～五節を読み、それらの設問に答え、節の内容を理解する	・第三～五節の理解 ・問10、12、14の理解	・問10、12、14解説動画 ・五節の解説動画 ※三、四節は解説動画なし
4	・第六、七節を読み、それらの設問に答え、節の内容を理解する	・第六、七節の理解 ・問15、17の理解	・問15、17の解説動画 ・第六節、七節解説動画
5	・第八、九節を読み、それらの設問に答え、節の内容を理解する	・第八、九節の理解 ・問20、23の理解	・問20、23の解説動画 ・第八、九節解説動画
6	・各節のキーセンテンスの指摘	・キーセンテンスを指摘した根拠を説明できた	
7	・キーセンテンスの指摘の共有	・他者の説明に納得できた	・グループワーク ・各節キーセンテンスの指摘についての解説動画
8	・要約の作成と送信	・200字要約ができた	・各節の要約カード ・本文構成図
9	・他者の要約の確認と振り返り	・自身の要約の足りない視点を把握できた	・要約の解説動画 (全員視聴)

青色（下線）の学習が「個別最適な学び」として行う活動、赤色（波線）の学習が「協働的な学び」として行う活動とし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実するよう授業の計画を立てた。まず、生徒は本文の第一節から九節までを読み、それぞれの節の理解に関わる設問を、ロイロノー

トのテスト機能を用いて解答する。その後、設問の解説を読み、解説を読んでも理解できない生徒は、「手助けツール」として用意された「問いの解説動画」を視聴する。動画を視聴しても理解できない生徒からの質問に授業者が個別で対応する。この一連の流れにおいて、各節の内容を理解し、設問で問われた内容についても理解できていれば、解説動画を視聴せずに次の節に進むこともできる。実際に教室内では、各生徒が自身に必要なと考える手段を用いて「筆者の主張を理解する」という共通目標に向けて学習を進める姿が見られた。

各節に書かれた内容を理解できた生徒は、要約に向けて各節のキーセンテンスの指摘を行う。それらを終えた生徒からグループをつくり、ここまでの「個別最適な学び」から得られた成果を共有した。ただし、このタイミングでは教室内でまだ個別の活動に取り組む生徒もいたので、授業者はグループ活動を行う教室を用意し、グループ活動を行っている教室と個別活動に取り組む教室を行き来しながら指導を行った。キーセンテンスについて、他者と意見を共有した生徒は個別の活動に戻り、必要に応じてキーセンテンスの指摘についての解説動画を視聴する。ここまでの活動を終えた生徒は200字要約に取り組む。要約を終えた生徒は、ロイロノートで共有されている他の生徒の要約や要約解説動画を視聴し、振り返りを提出した。

要約の振り返りを提出した段階で定期考査を迎え、生徒の本文内容の理解を測る機会とした。そして、考査後に言語活動に入った。「筆者の主張を基に、さまざまな観点や立場から、現代の事象について論じる活動」という言語活動を通して、段階的な七つの「ミッション」を生徒に課した。これらのミッションについては、一斉授業で学ぶ課題と自由進度学習で学ぶ課題に分けて実施した。下記表は生徒に示したミッションである。

ミッション1	筆者の主張を確認しよう	一斉授業
ミッション2	筆者の主張を基に現代の事象について考えてみよう	
ミッション3	ミッション2について、他者と意見を共有しよう	
ミッション4	筆者の主張①②が通用する現代の事象について意見を述べよう	自由進度学習
☆ミッション5	筆者に批判的な立場から現代の事象について意見を述べよう	
☆ミッション6	現代社会について考えを深めよう	
ミッション7	他者と成果物を共有しよう	一斉授業

言語活動の下準備となるミッション1～3については一斉授業の形式で行った。なお、定期考査では言語活動を円滑に進められるように、筆者の主張と関連する現代の事象についての新聞記事を用いた問題を出題し、考査後に一斉授業で解説することで、定期考査を「筆者の主張を現代の事象と結び付けて考える」スモールステップとしても位置付けられるよう試みた。

ミッション4～6については、生徒がミッションごとに意見文を提出し、一つのミッションを達成すると次のミッションに進むという形の自由進度学習で進めた。支援を必要とする生徒のためには、ミッションごとに「ヒントカード」を用意し、ロイロノートの資料箱でいつでも確認できるようにした。生徒が最初に取り組む「ミッション4」では、筆者の主張を「主張①：『である論理・価値』が根強く残っている」「主張②：『する論理・価値』が侵入し過ぎている」に分け、それぞれの主張が通用する現代の事象について考える活動を行った。授業者は、ロイロノートに提出された生徒の意見文の内容を確認し、本文の理解や考えの深まりが不十分であると判断した場合、生徒との対話を通して助言をした上で考え

直すよう促し再提出を求めた。家庭学習で言語活動を続ける生徒も多く、授業時間外に提出された意見文については、次回の授業までにロイロノート上でコメントを付けて返却し、再提出を求める生徒に対しては、理解が不十分な点等について授業の始めに声かけを行った。

## (2) 評価について

評価は、「指導と評価の計画」に示したルーブリックを用いて行った。言語活動において、ミッション4を提出し授業者の承認を得た生徒は、「思考・判断・表現」の観点について、「現代の事象について、筆者の主張を基に論じ、自分の考えを深めている」と判断し、B評価以上とした。また、その後、ミッション5に取り組み、授業者の承認を得られた生徒は、「現代の事象について、筆者の主張を基にさまざまな立場から論じ、自分の考えを深めている」と判断し、A評価とした。下記表は、ミッション4～6の生徒の提出者数と次のミッションに進んだ生徒の人数及び「思考・判断・表現」におけるA～C評価の人数である。ルーブリックを事前に示すことで、多くの生徒が家庭学習も含めて積極的に言語活動に取り組むことができ、その結果、A評価の生徒が増えた。

「思考・判断・表現」の評価 2クラス（計85名）

評価対象	提出者数	合格者数
ミッション4	85名（100%）	79名（93%）
ミッション5	75名（88%）	40名（47%）
ミッション6	20名（24%）	15名（18%）

（A評価40名 B評価39名 C評価6名）

## (3) 生徒アンケート

全ての言語活動を終えた後で、本実践で試みた自由進度学習について生徒にアンケートを行った。アンケートでは、「よい・少しよい」と答えた肯定的な意見と、「少し悪い・悪い」と答えた否定的な意見が132対132の同数になった。以下の意見は、回答について生徒がその理由を記述したものである。

「よい・少しよい」と回答した生徒の理由

- ・自身の速度で進めることができるので、分からない箇所を何度も学習することができて、理解に時間をかけることができた。また、グループワークによってさまざまな意見に触れることができ、理解を深められた。
- ・自身のペースで進めることができるため、分かっているところはどんどん進めることができてよかった。
- ・データで共有されており、家でも進度次第で進めることができてよかった。
- ・自分のペースで内容理解ができ、グループワークで他者の意見に触れ、より深く内容理解ができた。

「少し悪い・悪い」と回答した生徒の理由

- ・周囲と考えの共有のタイミングが最後になってしまい、理解が正しいのか不安に思いながら読み進めることになってしまった。チェックポイントみたいに途中で考えを共有できるとよい。
- ・自分一人の力で理解するのは難しいし、自分の分からないところの解説動画がピンポイントであるとも限らないし、マイペースに進めても問題がないので、どうしても授業中に怠けてしまった。
- ・自分で内容理解していくのがあまり得意ではなくて、みんなで考えていく従来のスタイルの方がよいと思った。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

本実践の最も大きな成果は、自由進度学習を取り入れたことが、生徒の「主体的な学び」を促進する仕掛けとなったことである。授業中に自分の分からない箇所について本文を何度も読み返したり、「解説動画」を観たりして、粘り強く前向きに学習に取り組む姿が見られた。さらに、休み時間や家庭学習においても言語活動に取り組むなど、一斉授業では見られにくい生徒の積極性が見られた。

また、ICT機器の活用によって、時間と場所の制約を受けずに学ぶ場を設けることができ、「個別最適な学び」の実現に近づいたと言える。そして、教室にいる生徒だけでなく、授業を欠席した生徒にも授業内容を把握しやすい環境を用意することができた。

一方、本実践には準備の負担が大きいというデメリットがあった。しかし、学年全てのクラスで同じ取組を実践することで、国語の教科担任全員で授業準備を分担し、負担を分散することができた。また、ICT機器を活用することで、本実践で準備した「ヒントカード」や「解説動画」等のデータも、次年度以降もそのまま使える形で残すことができた。

最後に、本実践は「論理国語」の授業で実施したが、「自由進度学習」や「解説動画を共有する方法」は、文法事項等の知識面において理解度の個人差が出やすい古典の学習とも相性がよいと感じた。解説動画やロイロノートのテスト機能等を用いて、時と場所を選ばず何度でも復習できる環境を整えることは、一度の説明では理解が困難な生徒にとっては「古典嫌い」を回避する手だてとなり、古典を得意とする生徒にとっては自分に最適な進度で知識・技能を身に付けられ、更なる学習意欲を抱かせる契機となる。その意味でも、古典学習においても積極的に本実践の経験を生かしていきたい。

#### (2) 課題

まず、本文の理解を個別の「自由進度学習」で実施し、本文を読み終わった段階で初めて「協働的な学び」の時間を設定した結果、多くの生徒は本文を理解する個別の学習段階で生じた疑問を、他の生徒と共有できないままになるという点が課題となった。学習の途中で困った生徒は授業者に質問するように伝えてはいたが、周囲が静かに個別の学習を進める環境で声を出して質問することを遠慮し、理解が不十分なまま次に進む事例があった。この課題は、ペアやグループで気軽に相談できる環境を整えた上で、日頃から学び合いを習慣化することで解決できると考える。また、ロイロノートのタイムライン、Teamsのチャット機能など、ICT機器の機能を活用すれば、「自由進度学習」の過程で出てきた生徒が抱えている疑問を授業者が容易に拾い上げることができるだろう。今後同様の実践を行う際、「学び合い」がしやすい環境づくりをすることの重要性を感じた。

次に、言語活動の評価についても、「自由進度学習」形式で実施したことにより、三つのミッション全てに取り組むことができた生徒もいれば、二つ目、三つ目のミッションに進めない生徒もいたという課題があった。意見文を提出した際、授業者の承認で次のミッションに進むことができる仕組みでは、進度の速い生徒が何度も再提出できるため、進度による不公平感が出てしまった。一度目の提出時には理解が不十分な生徒が再提出した意見文を評価の対象としたことで、本実践の目標である「生徒が考えを深める」ことについては一定の効果があったが、公平性という観点については検討の余地がある。